

# ボランティア講座 (情報技術コース) の取組みと今後について

若尾 泰明

## On the Present Situation and the Future of the Volunteer Seminar (Information Technology Course)

Yasuaki WAKAO

### 1. はじめに

ボランティア活動は、活動家の主体的かつ尊い奉仕の精神に支えられ、社会福祉活動や各自治体の各種事業などへの参加など広汎な社会環境で認知され、活動が展開されている。当館も、活動が無償で援助してくれるサポーターと呼ぶ多数のボランティアの方々に支えられて運営されているが、サポーターの方々にとっても活動に参加することで自己充実感が得られたり、活動を通して文化に関わる興味・関心・知識が得られたりすることから、本県の文化振興とも深く関わった活動となっている。

2007年には、「団塊の世代」が大量に定年退職し、日本の経済活動にも大きな影響力を与える「2007年問題」は、経済界における重要な経営課題となるだけでなく、退職後の生涯教育環境や文化振興のための活動の在り方を考える上でも大きな課題となるであろう。

また、現在世界の情報技術環境は、激変とも呼べる急速な発展と社会変化をもたらした。こうした環境の変化の中で、当館に関わっている大人や子供達の様子を見ると、情報技術インフラの整備（ハード面）のみが先行し過ぎてしまい、構築された情報技術インフラをどのように使っていくのか（ソフト面）が、十分に検討し議論されないままに進行しているといった危惧がある。

良識ある大人が、情報技術を十分に理解できず、とまどっている間に、飲み込みの早い子供達は、倫理観や道

徳観が置き去りにされたまま、危険性を知らず、使用方法だけを知っているという状態にある。このような情報技術の暴走ともいえる現状を、改善する方策が必要であろう。

ボランティア養成講座（情報技術コース）は、成熟した倫理観や道徳観を持つ大人に対し、不足している情報技術のスキルアップを図り、迷える子供達への規範となってもらうことはできないかと考え実践した講座である。情報を取り巻く様々な課題を抱える社会と、文化振興における「2007年問題」に対する一つの回答であるとも考えている。ボランティア講座（情報技術コース）の取組みと今後について報告する。

### 2. ボランティア講座 (情報技術コース) 開講の経緯と必要性

岐阜県博物館マイ・ミュージアム/マルチメディア情報センターは、平成5年度通産省（現経産省）「産業再配置促進施設整備費補助事業」によって全国6ヶ所（現在5ヶ所）に設置され、平成7年に開館した。

岐阜県に関わる様々な情報を収集し、デジタルアーカイブ化して保存し、県民が主体となって映像制作を行うことが可能な「マルチメディア工房・ぎふ」。制作作品などが視聴できる「ハイビジョンホール」。岐阜県の映像情報をハイビジョンマルチメディアにより提示する



情報技術について学ぶ子供達



マイ・ミュージアム/マルチメディア情報センター

「ハイパーハイビジョン風土記『ひだ・みの紀行』」などの施設・機能を備え、県民のマルチメディアの利用拡大とマルチメディアによる情報発信を通じた文化振興と地域振興につとめている。

平成13年度に、文部省（現文部科学省）の情報通信技術（IT）講習推進特例交付金により、県内の各文化施設に多数のパソコンが整備され、県民に対する情報通信技術（IT）講習が全県で実施され、事業は一旦終了したが、当館では、事業終了後も整備されたパソコンを有効活用し、博物館およびマルチメディア情報センターの目的と意義に沿った普及啓発活動を行うために、県民向けの岐阜県博物館情報技術講座を実施することにした。

博物館情報技術講座は、県民からの強い支持と要望を受け、平成14年度に14回、平成15年度には16回と年々開催回数や講座定員を増やしてきた。しかし、毎回定員を超える受講希望者の要望に応えきれない状況が続いたため、平成16年度には27回、平成17年度には30回と大幅に回数の増加を図ってきた。そのため、講座の運営に追われ、担当スタッフ3名は、本来のマルチメディア情報センターの業務に影響も出始めた。



情報技術講座（エクセル基礎）の様子

講座では、終了後、参加者に対するアンケート調査を毎回行い、講座内容や実施方法に工夫と改善を加え、一般的なパソコン講座とは異なった博物館らしい情報技術講座の開催を心がけた。それによって、高い倍率にもかかわらず、何度でも参加を希望する常連さんと呼ぶ固定参加者も現れ、情報技術は着実に参加者に定着していった。

この常連の熟年参加者達の様々な意見を聞くと、情報技術のスキルが上がれば上がるほど、学ぶだけでなく、学んだことを教え広めたい、ボランティア活動に参加したいという意欲が極めて高いことがわかった。

当館には、以前からサポーターの方々がいるが、各種催しの受付などの業務補助が主で、専門知識や技能を必要とする催しなどの補助を行うことは少なかった。

こうした県民の状況や要望と博物館運営の必要性から、ボランティア講座（情報技術コース）は生まれた。

### 3. ボランティア講座（情報技術コース）の募集内容

当初、ボランティア講座（情報技術コース）の募集目的を、上記の開講の経緯と必要性をふまえて岐阜県博物館マイミュージアム・マルチメディア情報センターの運営をサポート（ボランティア）のできる人材を養成することとした。しかし、当館は県施設であることから、募集目的には県内の市町村で行われる情報技術関係事業や運営をサポートできる人材の育成も加えた。

また、現役の学生などで運営をサポートできる若い人材を新たに開拓したいため、大学などにも募集を行った。  
◇募集内容

#### ☆募集目的

- ・当館及び地域の活動・運営のボランティアとしてサポートを希望する人が、専門的な知識や技能を学ぶために開講する。

#### ☆サポートを依頼する内容

- 情報技術関係一般サポート
  - ・岐阜県博物館情報技術講習運営補助
- 情報技術関係専門分野サポート
  - ・岐阜県に関わる映像（風土記追記）などの取材および映像編集作業補助
  - ・映像情報入力、ビデオファイル変換作業
  - ・データベース入力作業など

#### ☆募集対象

- ・情報技術に関心のある方で、原則として次年度以降、上記サポートを行っていただける方を対象に募集する。（シルバー世代をターゲットにした。）

#### ☆募集の広報について

- ・県内市公共施設、生涯学習施設、大学などに重点的に行う。

#### ☆募集人員

- ・10名

#### ☆開催場所

- ・岐阜県博物館マイミュージアム4階

### 4. ボランティア講座（情報技術コース）の内容

運営のサポートには、情報技術の基礎的な知識で対応が可能な情報技術関係一般サポートと、基礎的な知識の上に専門的な情報技術を必要とする情報技術関係専門分野サポートがある。そこで、基礎的な講習を必修とし、講習内容は、次の4点を柱においた。

- ①博物館サポーター（ボランティア）の心構え
- ②パソコンの機器（ハード）に関する学習
- ③主要汎用ソフトに関する学習
- ④情報技術の普及啓発に関わる留意点と情報モラル

基礎的な講習受講後、専門分野の講習では、映像編集コース・映像情報入力コース・データベースコースに分け、少数による専門的な個別講習を行うことにした。

☆「基礎的な講習」の内容

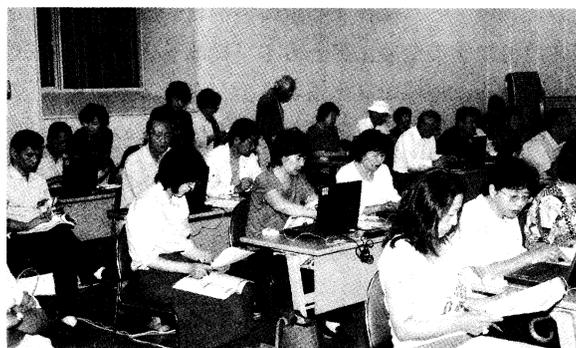
- ① 5/15：共通講座  
(サポーターとしてのマナーや心構えなど。)
  - ② 5/21：パソコンの基本Ⅰ  
(OS:Windowsについて、インターネット、メール、セキュリティなど)
  - ③ 6/ 4：パソコンの基本Ⅱ  
(関連機器の操作方法：デジカメ、DVCAM、スキャナ、CD-R、著作権法など)
  - ④ 6/18：ワードの基礎  
(文書作成ソフト：ワードの使い方、活用方法)
  - ⑤ 7/ 2：パワーポイント  
(プレゼンテーションソフト：パワーポイントの使い方、活用方法)
  - ⑥ 9/ 3：エクセルの基礎  
(表計算ソフト：エクセルの使い方、活用方法)
  - ⑦ 9/17：フォトショップエレメンツの基礎  
(画像加工ソフト：フォトショップエレメンツの使い方、活用方法)
  - ⑧10/ 8：ホームページ作成
  - ⑨11/ 5：データベース作成の基礎
  - ⑩12/10：パソコンの応用（情報発信の留意点・情報モラルなど）
- ※上記のほかにも、一般を対象としたパソコン講座を見学してもらい、講座補助員として講座参加者への接遇対応や指導方法について学習した。

☆「専門的な講習」の内容

- 映像編集コース
  - ①デジタルビデオ・デジタルカメラの撮影実習、シナリオ作成演習
  - ②映像編集装置の操作実習
- 映像情報入力作業コース
  - ①映像情報入力実習、データ変換実習
  - ②映像編集装置の操作実習
- データベースコース
  - ①アクセス基礎と応用講習
  - ②資料の分類、キーワード、カテゴリー分け演習。博物館データベース入力実習
  - ③博物館データベース公開（アップロード）実習

5. ボランティア講座（情報技術コース）募集について

開講にあたって、心配したのは、募集しても希望者が集まらない場合であった。情報技術講座に参加されている方々の事前調査や、実施している情報技術講座の高い倍率を見ると、少数ながら応募はあると予想していたが、無償のボランティア活動という制約上、募集定員を超える応募者はないと考えていた。しかし結果は、募集定員10名に対し、受講希望者が22名と予想を遙かに上回る結果となった。心配を全く覆す応募結果に驚くと同時に、ボランティア活動や文化振興に関わる潜在的需要の大きさを改めて知らされ、開催に踏み切って良かったと思った。

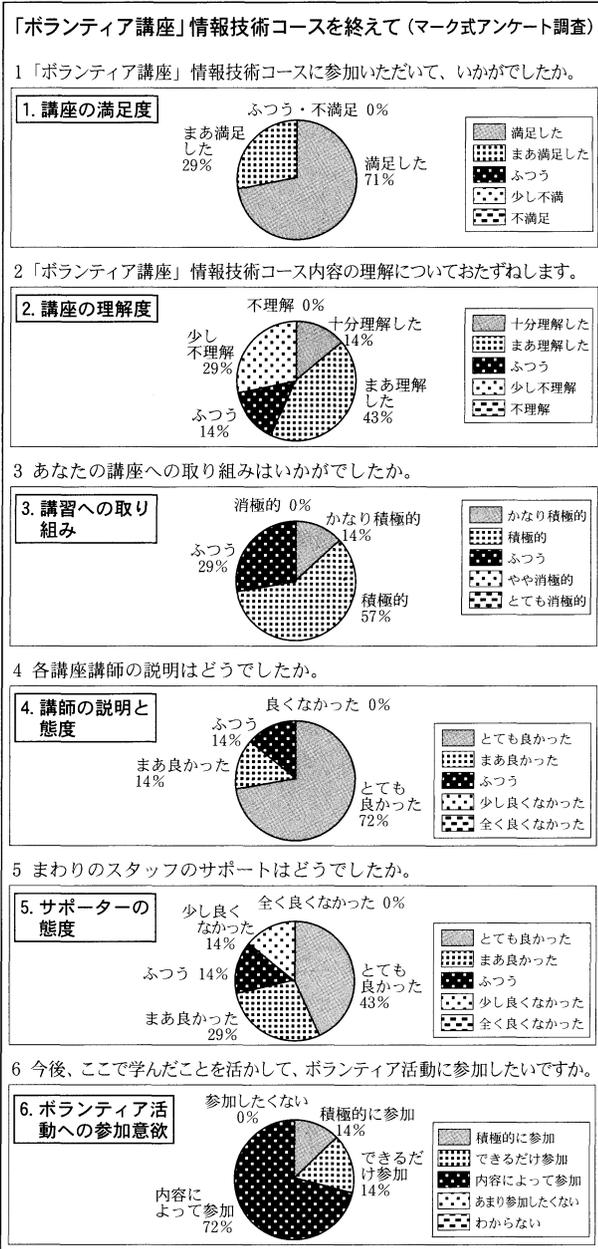


情報技術サポーターのサポート活動の様子

締め切り後、受講希望者が多かったので、一人一人に電話により情報技術のスキルを調査した。すると、情報スキルは既に十分あるが、ボランティア活動への不安から講座に応募した方もあることが判明した。そこで、情報技術スキルの高い受講希望者には、情報技術サポーターとして今年度から活動していただくことにした。

6. ボランティア講座（情報技術コース）の感想と反省

講座終了後、参加者からいただいたマーク式アンケートの結果は次のようであった。



マーク式アンケート結果からは、情報技術スキルを向上させる方法や講座内容・プログラムには、改善点や課題が残っていることが分かった。しかし、ボランティア講座のねらいと意義付けの理解、情報モラルの重要性の

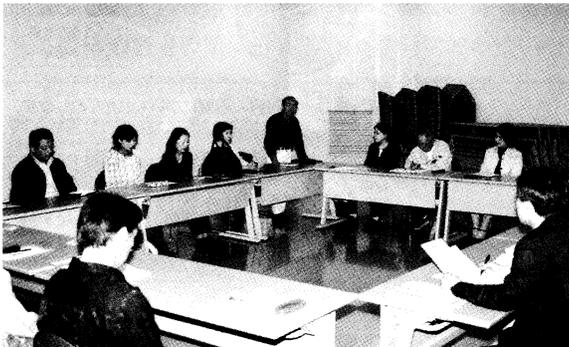
理解、当館のねらった世代の講座への取り込みなど、重要視していた部分については、成果があったと考えている。

次に、記述式アンケートの結果を記載する。

☆アンケート調査票の記述から

#### ○参加した目的

- ・パソコン技術を更にスキルアップしたい。
- ・今までに何回か博物館の情報技術講座に参加し、感謝の気持ちからお返しをしたい。
- ・定年退職後の生き甲斐を見出したい。
- ・情報技術に関わる知識と内容を深めたい。
- ・地域社会の一員として貢献したい。
- ・パソコンのスキルを磨き、人に教えたい。
- ・自宅のパソコンを活用したい。



ボランティア養成講座（共通講座）の様子

#### ○1年間の講座を終えた感想

- ・講座を受けて、パソコンに対する抵抗感や心配が無くなった。
- ・充実した講座だった。年代の違う方との出会いがあり、友達ができ、同じ考え方を持つ仲間になれたことがうれしかった。
- ・研修内容と範囲が広すぎたため、奥深い点が理解できなかった。感謝の念でいっぱいである。
- ・パソコンの一部しか使っていなかったことに気づかされた。大変役に立った。
- ・毎回充実した楽しいときが過ぎた。初めて使うソフトや機器があり、感動すら覚えた。

#### ○今後どのような活動に参加したいか、活動の抱負

- ・役に立てることや手伝えることが有れば厭わない。
- ・更に多くの講座に参加し、自分のスキルを極めたい。
- ・今回受講したような内容に沿った行事や事業には積極的に参加したい。
- ・身近な市町村地域で各種行事に参加したい。
- ・情報技術講座の補助やパソコン初心者の方をサポートする活動をしていきたい。
- ・博物館映像資料の整理・収集・編集やデジタルアー

カイブ化する手伝いがしたい。

- ・パソコンのサポーターをするには自信がないが、準備や受付などのサポートといったボランティア活動には積極的に参加したい。
- ・ネットで多くの人と交流したが、顔が見えないのは不安だし、淋しかった。博物館の講座を通して、たくさんの方々と、直に知り合うことができ、人間同僚が直接ふれあうことの大切さを実感した。

記述式アンケートの結果からは、前述した文化振興における「2007年度問題」の解決、情報技術の危険性にさらされている子供達（孫達）への対応、情報モラルの確立、ボランティア活動の啓発といった難課題に対する解答が全て記載されている。特に、講座を通して人と人との直接的なふれあいを生み出し、バーチャルな情報技術がもつ最大の欠点を本講座がカバーした点は、大きな成果であったと考えている。



ボランティア養成講座（実習）の様子

## 7. ボランティア講座（情報技術コース）の今後

今年度のボランティア講座（情報技術コース）は、基礎講座と専門講座の一部を終えた状況である。来年度は、今年度養成した講座受講者やサポーターの力を借りて、情報技術による博物館の情報化と文化振興を図るための本格的な取り組みをいよいよ始める。

近年、全国の市町村や各種の博物館、図書館、資料館等及び教育関係機関において、地域資料や収蔵物のデジタル化による保存と流通への取り組みが進められている。企業においても、保存する資料の消耗や散逸を防ぎ、活用を円滑にするため、アーカイブ構築への取り組みが始まっている。地域の文化情報をデジタルアーカイブ化することは、地域の文化振興と啓発を図るため、極めて重要な取り組みである。デジタルアーカイブの構築と運用には、デジタル技術を身につけるとともに、知的財産の創造、保護、管理、流通等についての知識を持った人材が必要となっている。岐阜県博物館では、デジタル・アーキビスト資格委員会と協力し、デジタル・アーキビスト養成講座を開催し、更に活動の発展を図りたい。